

IP 時代における電気通信番号の在り方に関する研究会第 3 回（平成 17 年 4 月 25 日開催）におけるWGからの報告に対する検討状況

相田ワーキンググループリーダーから、資料に基づきWGでの検討状況を報告したところ、次の意見が出され、ひっ迫に回避ができる期日を設定しWG報告書に記載するよう指示があった。

〈意見〉

- 橋本構成員（代理：栗野 NTT）から、固定電話の番号ポータビリティに関する関係事業者間での検討状況について、「議論中であるが2007年の初頭には二重番号解消方式を導入すべく検討しているところ。」との発言があり、櫻井構成員から、「移行期間については何も言っていないので、今回の報告書に明示したほうがよい。」との意見が出された。
  
- 齊藤座長から、固定電話番号の番号ポータビリティの二重番号を使わない方式を導入するまでの当面の措置として、使われていない県内の他の番号を使用する方式を取る方がよいとの方法について、「直近では3年後にひっ迫するため、3年後に他の番号を使用できなかった場合は、これから先の固定電話の番号ポータビリティに支障を来すため、3年後に使用できるように適切な期日を設定して行う必要があり、表現に注意し、WGにおいて報告書第四章を執筆して欲しい。」との指示があった。